



クローズアップ
CLOSE UP

夏を彩る大胡の祭り

7月29日に大胡城・牧野氏まつり、同日と30日に大胡祇園まつりを開催しました。牧野氏まつりでは、武者行列や鉄砲演武など、迫力のある歴史絵巻を展開。祇園まつりでは、山車の巡行や激しく動き回る暴れ獅子の勇姿が訪れた人を魅了していました。



若きパティシエ技競う

小屋原町の東日本製菓技術専門学校で8月1日にパティシエ甲子園を開催。一次審査を通過した県内の高校生、12チーム36人が創作ケーキ作りに挑みました。今年のテーマは「アイデアきらりヘルシーケーキ」。厳正な審査の末、県立藤岡北高が頂点に輝きました。



近代詩の金字塔を顕彰

前橋文学館では、10月9日(月)まで萩原朔太郎の詩集『月に吠える』100年記念展と、近代文学に発想を得たコミック『月に吠えらんねえ』展を開催中。7月29日には作家の夢枕獏さんが講演し、朔太郎の作品の特徴や自身への影響などについて語りました。

地域の防災意識を掘り起こす

日本防災士会 県支部長
飯塚 宗夫さん・64歳
岩神町二丁目



防災士で組織する、日本防災士会。飯塚さんは、県支部の設立に携わり10年以上活動を続けています。この会は、訓練へのアドバイスや講演、被災地支援などを行っている。「各地区で自主防災会などの集まりはあるのですが、実際に活動するのは難しいところが多いんです。だから、私たちがそういうところに行ってお手伝いをしています」活動の中で大切にしているのは自助と共助の取り組みだ。「自分の身を守るために自分でできること、そして自力で避難できない人たちを周りの人がどう手助けするか、こ

れを重点的に伝えていきます」力を入れて防災啓発を続けているが、意識を高める難しさを感じているという。「どうしても自分事と思えない人が多い。被災地の人も、まさか災害が起きるとは思わなかったと口をそろえます。でも、災害はいつ、どこで起こるか分かりません。まさかはやってくるんです。その時のために、今から備えと防災意識を継続してもらおう。これが私たちの目標ですね」

「志を持った私たち防災士が、地域で先頭を切ってやっけていきたい」と飯塚さん。地域の防災リーダーとしてこれからも防災意識を広めていく。

arts前橋の
舞台裏 vol.3



アーツ前橋の学芸員が美術館の舞台裏や自身のバックグラウンドなどを披露。第3回は吉田成志が調査での作家との交流についてお送りします。

アーツ前橋
027・230・1144

仕事は日常生活にも表れています。この時期、そうめんなどを食べる機会も多いかと思いますが、加藤さんは毎年自家栽培のクルマミとゴマをすり込んだオリジナルレシピのごまだれを作ります。私が加藤さんと出会い、作品調査を始めた4年前から、毎年ごまだれを分けてもらってそうめんを食べています。これが本当においしい。防腐剤などは使用なので日持ちはしませんが、毎日食べても飽きません。さらっとした舌触りでしつこくなく、うま味とまろやかさが絶妙。御年79歳のバイタリティーあふれる作家が作るもの、健康に悪いはずがありません。これで夏の食欲不振を解消。体調管理の第一歩はまず食にあるようです。

